

世界科学データシステム国内推進会議サイエンスクラウド運営部会第一回会合
議事概要

日時：平成 24 年 9 月 20 日（木）13:00～16:15

場所：独立行政法人情報通信研究機構（NICT）麹町会議室

参加者：別紙のとおり（国立情報学研究所 北本構成員及び宇宙科学研究所 篠原構成員は
欠席）

議事概要：以下のとおり

1. 冒頭挨拶

NICT 林監事より、冒頭挨拶があった。

2. 議事

(1) サイエンスクラウド運営部会について

資料 1-1 に基づき、本部会設立に至った経緯を事務局から説明した。

(2) WDS の概要について

資料 1-2 に基づき、WDS の目的・背景等について村山統合データシステム研究開発室
長から説明した。

・加盟機関の審査に関する質問、WDS の対象となるデータの種類への質問等があった。

(3) NICT サイエンスクラウドについて

資料 1-3 に基づき、NICT サイエンスクラウドの概要について渡邊英伸研究員から説
明した。

・HPCI と NICT サイエンスクラウドの差異、ジョブ管理システムの内容、WDS とサ
イエンスクラウドの関係等について質問があった。

・データの長期保存に関して、そもそもどのような体制で科学データのアーカイブを
国として行っていくべきなのかについて議論が行われた。

・NICT サイエンスクラウドとその他関係機関のシステムとのインタークラウド的な連
携も、今後の課題として検討できるのではないかという指摘があった。

(4) 構成員の取組について

資料 1-4 に基づき、各構成員からそれぞれの取組について説明と質疑応答が行われた。

・Gfarm（DB 分散管理ミドルウェア）の利用のされ方、可視化メカニズムとの関係、
関係する国内民間企業の開発動向、海外展開の状況に関する質問があった。

・秘密分散システムのサーバ分散形式に対する質問、医療情報と一般的な科学データ
に求められるセキュリティレベルの違いなどに関する質問があった。

・データの保存について、最先端の研究開発への志向と長期にわたるデータ保存の業
務との両立性に対する議論があった。また、データそのものだけの保存だけでなく、
データを活用できるサービスと併せてのアーカイブ化が必要ではないかという

指摘があった。

- ・データベースの統合については、NBDC（バイオサイエンスデータベースセンター）に代表される統合が一つの理想ではあるとしつつも、現実にはメタデータレベルを共有しつつデータ自体は分散して保持し、データ連携が有効な分野や各省庁・各研究機関の得意な部分から取り組んでいくべきではないかという議論があった。ただし、それでは海外のデータサービスに勝てないのではないかという指摘もあった。
- ・地球観測及び一部の深宇宙探査分野ではデータの種類が多く、かつ処理用アルゴリズムもそれぞれに進化しているため、組み合わせの数だけデータセットを持つのは現実的ではなく、オリジナルのデータとその処理機能を合わせての提供が良いという議論があった。
- ・クラウドの定義に関する議論があったが、それぞれの機関内においても定義は統一されていないため、NISTの定義に類する厳密な定義は特段要しないこととした。
- ・クラウドは運用管理システムの技術が鍵であり、よりマネジメントテクノロジー的な方面での取組が求められるのではないかという指摘があった。

（5）今後の計画について

資料 1-5 に基づき、事務局から今後の計画について説明した。

（6）その他

事務局より、不備のあった資料 1-3 の修正版を後日配布すること、資料 1-4 につき非公開部分がある場合は公開前に個別調整を行うことを連絡した。

（以上）